

すくすく相談のご案内

～ お子様をよりよく理解して、関わり方のポイントを一緒に考えませんか ～

対象：小学校就学前までのお子さんと保護者

場所：河合町保健センター 予約制です。

多くの方が、この相談を希望されているため、すぐにご案内出来ない場合もございますが、お気軽に、河合町保健センターにお電話(0745-56-6006)ください。

保健センターで実施しているすくすく相談は、保護者やお子様の困りごとを相談する場です。

子育ての悩みや不安を心理相談員、保健師にお話ください。

必要に応じて、積み木や絵カード等を使った、新版K式という発達検査を行います。

お子様の今の状態を確認して、お子様へのかかわり方を保護者の方と一緒に考えていく相談です。

*お子様に合った関わり方を考えるために、保護者の方が希望される場合には、所属している保育所や幼稚園、療育施設の先生に同席していただくことも可能です。

同席されない場合も、所属している保育所や幼稚園、療育施設がある場合、そこでの様子を聞いていただくことで、お子様の状態がよく分かります。

結果説明は保護者さまから、所属先へお伝えください。

*発達検査報告書に関しては、必要な支援におつなぎするという観点から、医療機関への初回受診、就学時にのみ原則発行しています。

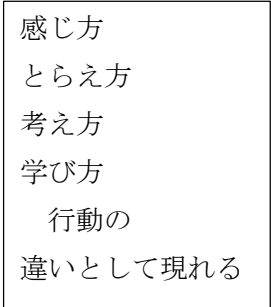
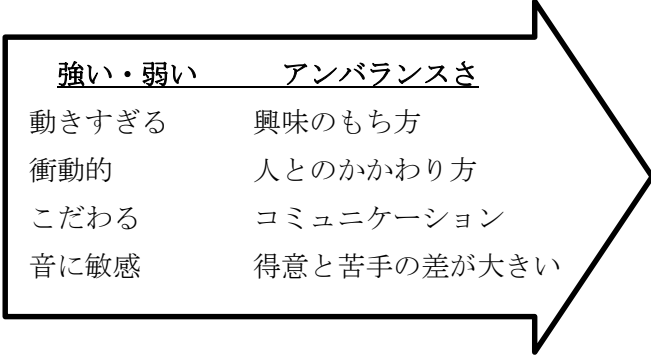
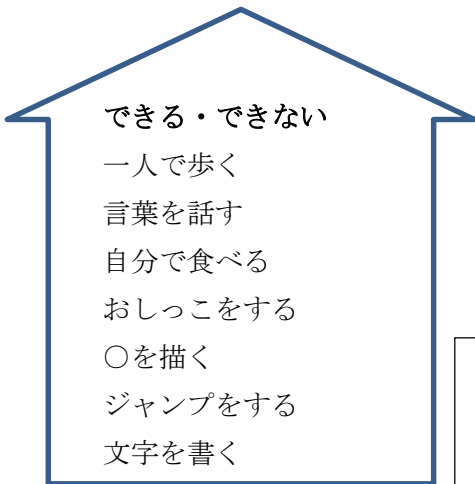
*手続きの更新のため、新版K式の検査だけを取ってほしいとの希望には、対応できませんので、ご了承ください。

☆ 発達ってどんなこと？ ☆

発達とは、生まれたばかりの子どもが、大人に近づいていくときに見られる心身の変化のことです。

☆ 子どもの発達の特徴のとらえ方 ☆

獲得の遅れ



程度の違い 偏り ゆがみ

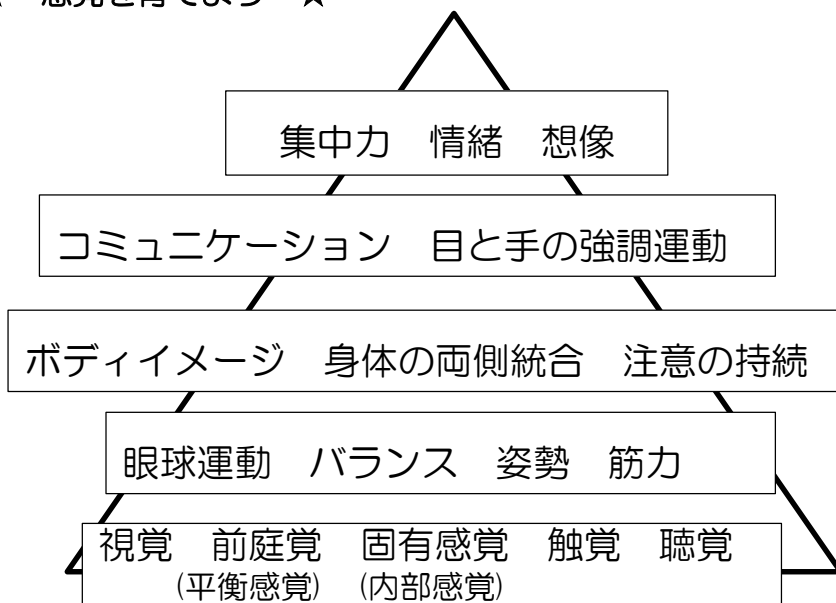
・興味のもち方や、こだわり、対人関係、社会性の発達、行動の特性は、課題であると認識しにくいことがあります。

・脳は、各部位が言語・視覚・運動・司令塔など役割を分担して担い、連動することで複雑な行動ができます。



たとえば、視覚と固有感覚(荷物などの重さを把握する感覚)がうまく連動できないと、キャッチボール等の運動は、「見たものに応じて体を適切に動かす」という活動がうまくいかず、「うまくキャッチできない」という結果になります。

☆ 感覚を育てよう ☆



・ことばでのコミュニケーションや注意・集中の機能は、複数の感覚と身体が高いレベルで連動してできる行動です。
・そのため、土台の感覚発達が不十分であると、コミュニケーションの困難や注意集中の困難という行動につながります。
・感覚の育ちを分析し、適切な発達を促しましょう。

☆ 声かけのコツ ☆ 参考文献 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 児童・思春期精神保健研究部

①お子さまの注意をしっかりとひいてから声かけしましょう。

②目に見える手がかりを使いましょう。

実物や写真を見せる
身ぶりや見本を見せる

③言葉を選んで声かけしましょう。

ポジティブな表現で
具体的に
短く

・ひとつのことばを覚えるまで500~600回もことばを聞く必要があるとされています。
・「話す力」よりも「わかる力」がまず重要です。ことばは文脈の中で覚えていく、「生活の流れ」と考えられます。